

## FD 関連研修会 参加報告書

主 催	名城大学 経営学部
企画名称・テーマ	「大学生の就業力育成支援事業」シンポジウム 「現場触発型による就業力育成支援」
開催日時<会場>	2012年2月25日(土) <名城大学>
参加者所属	文学部 中国学科

### 参加報告

#### 【基調講演】

加藤明彦氏「産業界が期待する大学生の就業力～我が社の「就業力ゼミ受け入れ」経験を通じて～」

自動車産業を取り巻く環境、経営姿勢(経済は、山の遭難と違い、じっと待つてはいけない)、世の中は思うようにはならない(永久の安定はなく、会社は必ずつぶれる。人間は、永久に生きることはなく、現在の社員は、必ずいなくなる)、危機感(「危険+機会」の認識が会社が将来に向かって発展する秘訣)、自立型社員をめざす採用(成績証明書、履歴書は内定を出すまでもらわない。面接は、私服で来てもらい、普段の自分を出してもらい)、就業力育成への期待(テクニックで就職活動をしなさい。学校での学びから、自分は何がやりたいのか、に気付いてほしい。チャンスであるかないか、を迅速に考える。親は亡くなる、最後は自分で生きていくことを知る)。

#### 【報告】

瀬川新一氏「経営学部が取組んできた就業力育成・支援」

「講義・ゼミナール・企業実態調査による三位一体型の現場触発型教育・学習」を中心に、取組みの目的は、学生の意識改革であり、企業訪問を通して「働く」意味や社会人・職業人として備えておくべき「力」を実感させ、ある意味で修学の「目標」を持たせることである、と説明した。

犬飼斉氏「キャリアセンターの現場から」

大学の専門(ゼミの授業は覚えているが、大教室の授業は記憶にない)、企業訪問、社員への質問(働きかけ力、発信力が低い)、キャリアセンターの立場(大学での授業は将来社会で役に立つことを知ってもらい、自分の頭で考える習慣をつける)。

#### 【パネル討論】

コーディネーター:森川章氏。大卒に期待されることは、高卒に期待されることとは違う。大学はそれなりの教育をしなければならない。

パネラー:加藤明彦氏(学生の時のゼミは、共同研究で、喧嘩もし分裂もした)、田中武憲氏(教師が気付いたことを説明するよりも学生自身が気付いた方がよい)、土橋美鈴さん、蒲田荘君(それぞれが、訪問調査で学んだことを紹介した)。

後半で、森川氏が、名簿を手に遠距離からの参加者を指名して発言を求める一幕があった。本学以外では、新潟工科大、富山国際大、山形大、横浜国大、関西福祉科学大、別府大の名があった。企業人も加わったシンポジウムは、実学を重視する姿勢が濃厚で、副学長がコーディネーターを務めたことと相まって、真剣さを感じられた。